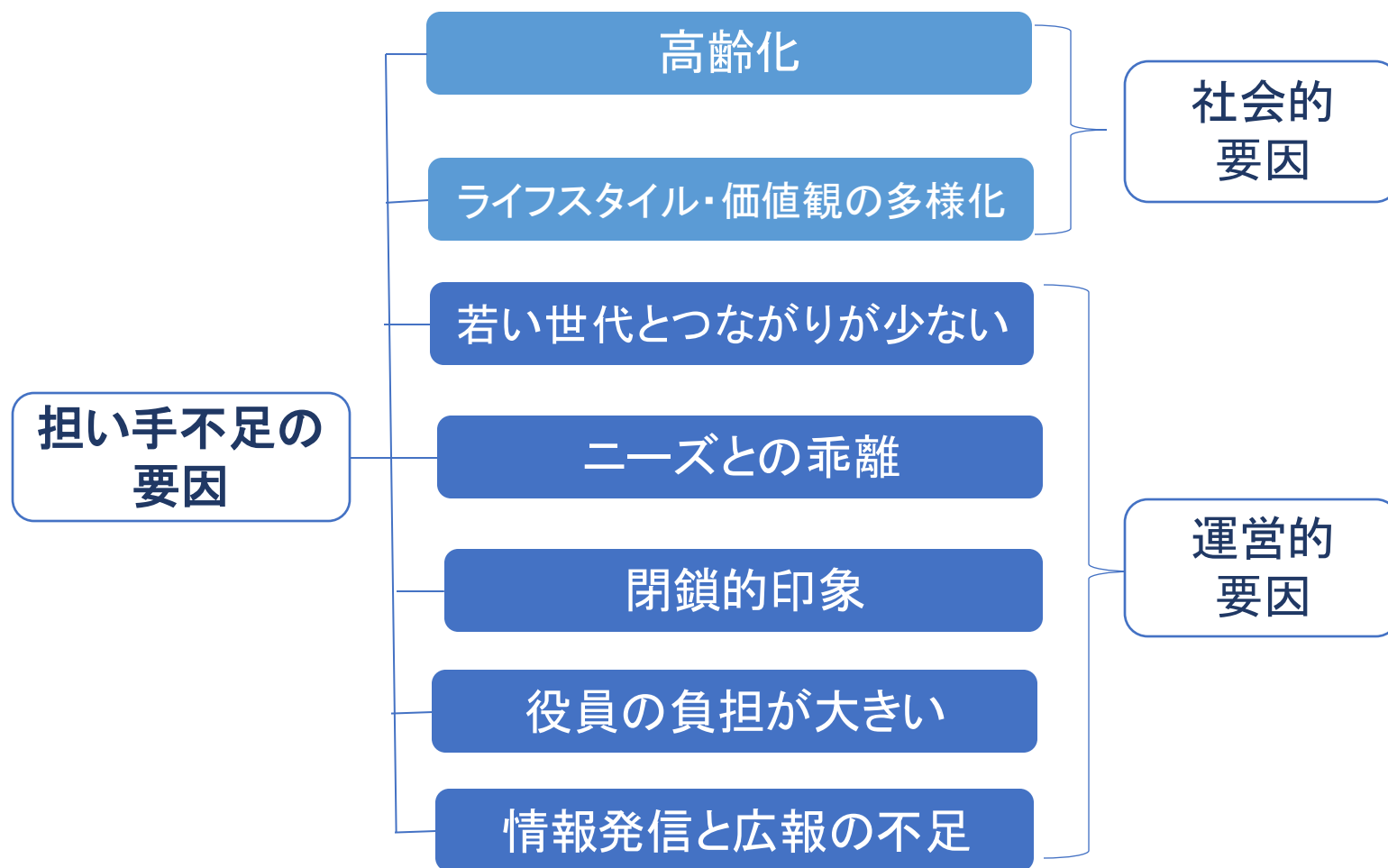


町内会・自治会の担い手不足



(1) 町内会の担い手不足の主要要因



高齢化

- 住民の高齢化と同時に、役員も高齢化が進み、町内会・自治会の活動が高齢者中心になってしまっています。

ライフスタイル・価値観の多様化

- 賃貸住宅などに暮らす若い世代は、職場と自宅の往復の中で町内会・自治会を知らないこともあります。
- 新型コロナウイルスにより、ライフスタイルが大きく変わり、町内会・自治会に求めるニーズが変わって来ています。
- 町内会・自治会でもデジタル化を進め、効率的な運営が求められるようになりつつあります。
- 孤独を感じる若い世代が増えており、同時にコミュニティへの関心を追持っている若い世代も増えています。

若い世代とつながりが少ない

○全国の町内会・自治会の活動



○高齢化社会のため高齢者中心の活動になっている町内会

- ・ 急激な高齢化により、役員の高齢化、そして高齢者向けの活動が中心になっている。

■ある町内会の年間行事

	主な活動	主な参加者
4月	町内会総会・懇親会	役員・班長
5月	清掃・健康体操	清掃は住民/健康体操は高齢者
6月	お祭り	住民全体
7月	健康体操	高齢者
8月	カラオケ大会	高齢者
9月	防災訓練・秋祭り	住民全体
10月	清掃・健康体操	清掃は住民/健康体操は高齢者
11月	カラオケ大会	高齢者
12月	クリスマス会・餅つき	子ども
1月	新年交流会	役員が中心
2月	健康体操	高齢者
3月	進学祝い金	子ども

○役員と住民のつながりが少なくなっている

町内会役員

60代・70代・80代が中心

役員の数も多い

役員の担い手
不足が課題



- ・町内会全盛期(昭和)をイメージ
- ・高齢者による
高齢者向けの活動が中心
- ・若い世代は町内会に関心がないと思っている



つながりが少ない

地域コミュニティの住民



現役世代(～65歳)
コミュニティには関心



子育て世代
子育て支援へのニーズ



若い世代
孤独感
コミュニティへの高いニーズ

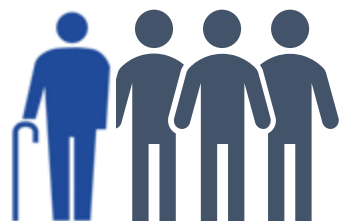
ニーズとの乖離

- 本来、町内会の活動は、会員（住民）のニーズに対応し、『共感』を得ることが基本です。
- 役員と会員の距離が出来てしまい、ニーズを十分把握できないこともあります。
- 多様化する会員のニーズを把握し、活動の棚卸しや新たな活動を展開することが必要です。
- ニーズに対応することで、町内会の運営を理解してもらい、活動に参加・協力してもらうことができるようになります。

○若い世代との違い

昭和の活動を継承

運動会
忘年会・新年会
バス旅行
高齢者クラブ
健康イベント
マスメディアで情報
回覧板・電話

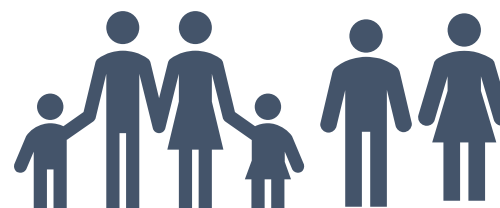


町内会の役員世代

60代・70代・80代

楽しくことをしたい令和

ハロウィン
クリスマス会
キッチンカーイベント
子育てサロン・地域食堂
コミュニティカフェ
インターネットで情報
SNSでコミュニケーション



現役世代・若い世代・子育て世代

○若い世代のコミュニティへのニーズ

育児中の住民



- 子育て中は孤独になりがち
- コミュニティのなかで子育てのアドバイスがあると良い
- 情報はInstagram、LINEで欲しい

子育て世代



- 子ども向けイベントがあるとよい
- 多世代交流があるとよい
- 地域食堂などがあると助かる
- 子ども向けのクリスマス会などは手伝える
- 情報はInstagram、LINEとかで欲しい

若い世代



- コミュニティは大切だと思う
- 孤独を感じている
- 適度な人のつながりは必要
- コミュニティカフェなどコミュニティの場が欲しい
- お祭りは楽しみにしている
- 情報はInstagram、LINEとかで欲しい

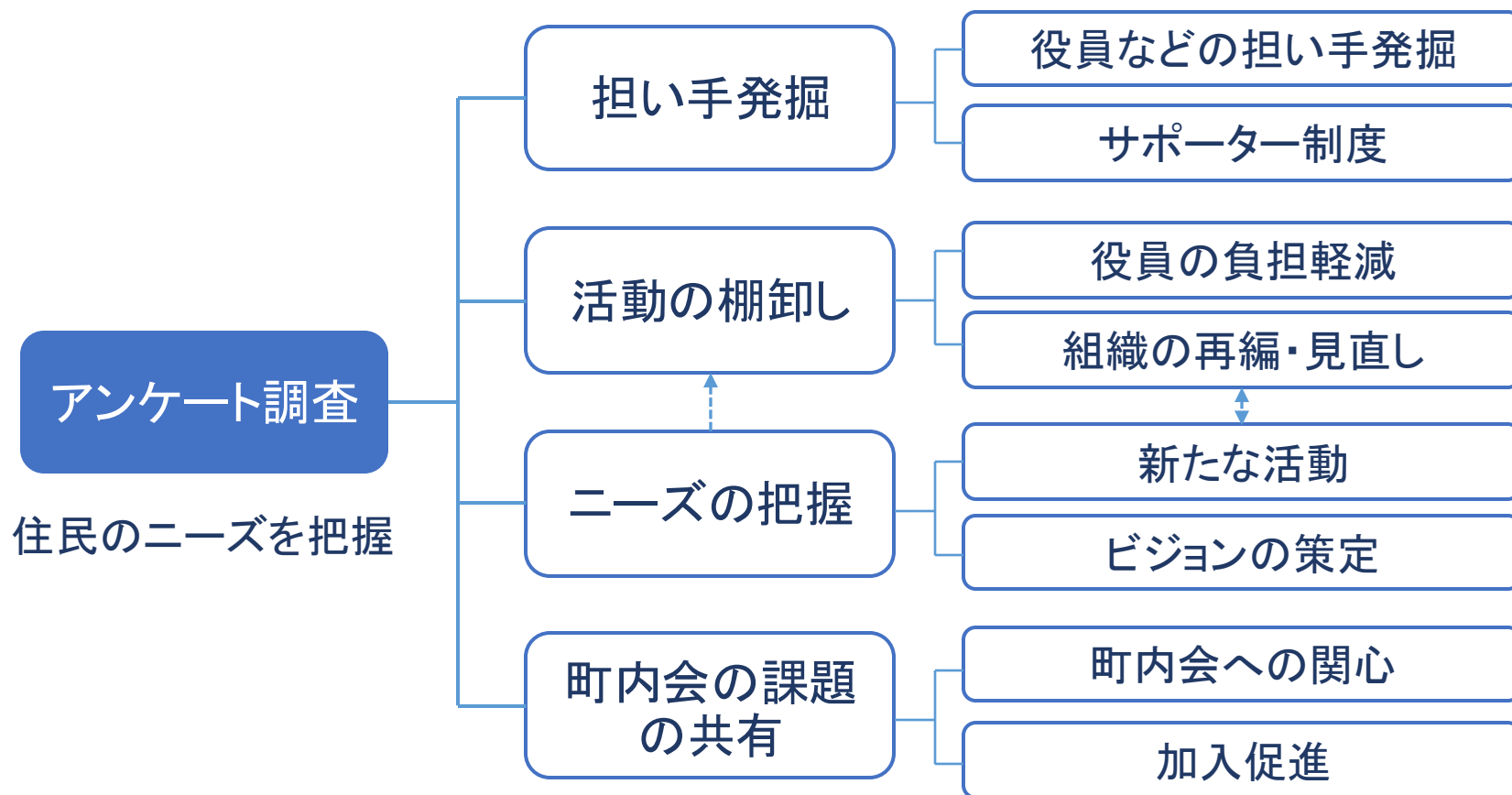
○子育て世代とのカフェミーティング



座談会は託児スペースと保育士さんにサポートしてもらうことで
参加しやすい会になります

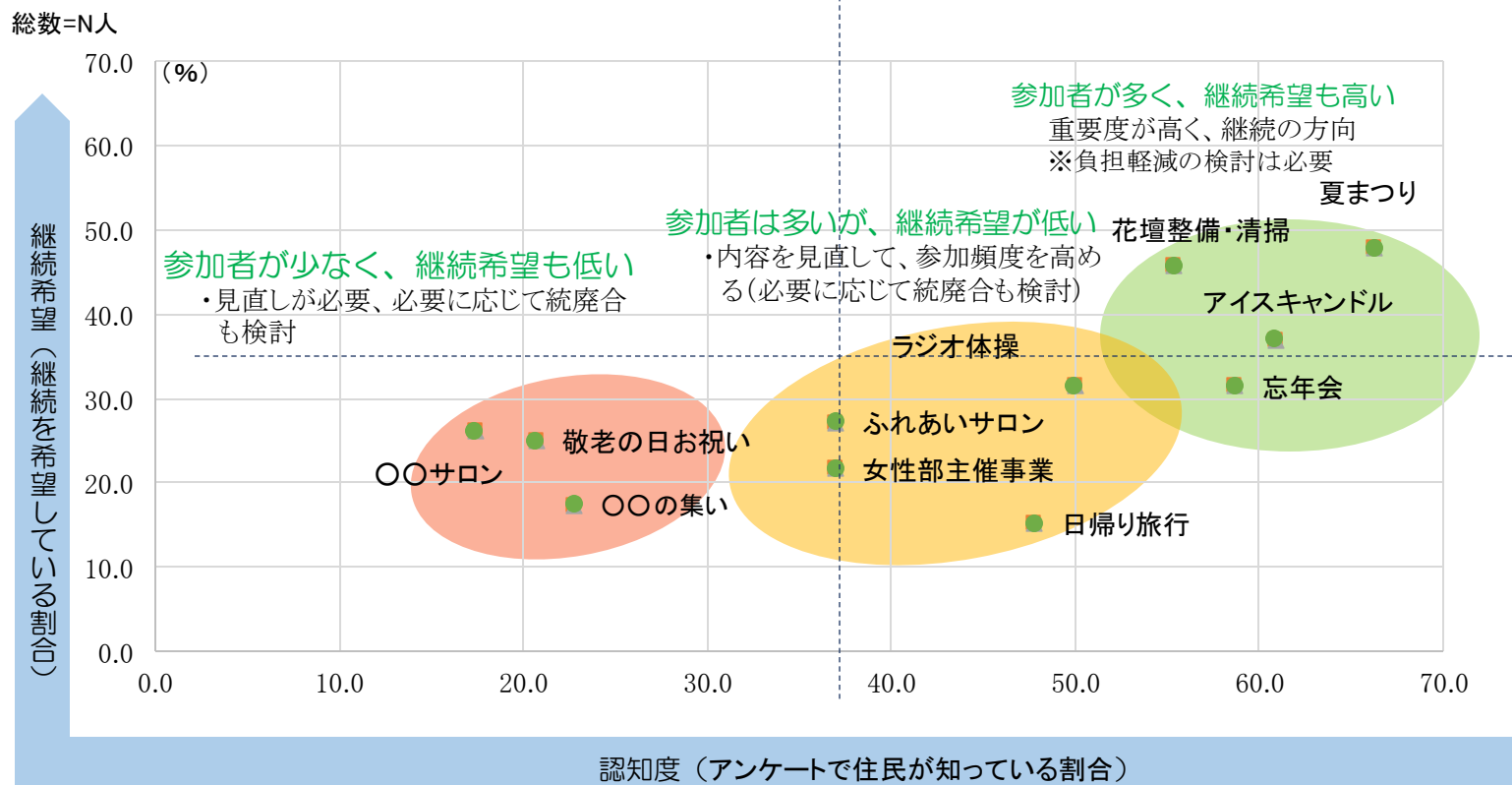
○アンケートの実施支援

- アンケートで町内会の活性化を進めることを示すことが、オープンな町内会への第一歩です。



○ニーズに基づいた活動や組織の見直し

- アンケートの結果に基づいて活動の棚卸しを行います。
- アンケートに基づいて活動を行うことが必要です。
- ただし、アンケートでは少数となりがちな子育て世代、若い世代のニーズはしっかり取り入れることが必要です。

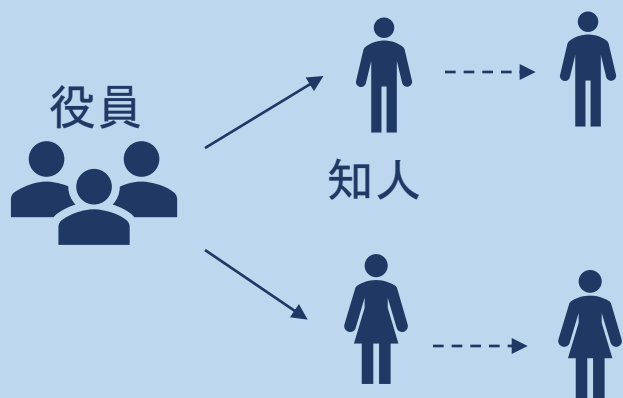


○アンケートで広く人材の発掘

- ・ 町内会の役員は、顔見知りからが多く、その範囲や世代は限られている。
- ・ アンケートで広く人材を発掘する大切である。

アンケートでの人材発掘範囲

役員による直接的な人材発掘範囲



顔見知りの範囲・世代が近い



地域コミュニティの力
が必要

子育て世代など
多世代



やれる時に
やれる範囲内で



地域に貢献したい

閉鎖的印象

●外部からは閉鎖的な印象～オープンな運営へ

- 町内会が閉鎖的で、一部の役員だけで行われているといった印象があります。
- 役員会には誰もが自由に参加できるようにしましょう。
- 役員会は多くの方が参加できる時間帯に開催するようにしましょう。
- これからは役員会をオンラインで開催することも必要です。

●役員の任期にも配慮

- 役員の任期が長いことも閉鎖的な印象を与えてしまいます。
- 役員の交代を促す仕組みも検討しましょう。

●世代交代や新たな人材を確保

- 在宅ワークなどで、地域コミュニティに関心を持ち始めた若い世代もいます。
- 世代交代を促すチャンスが来ています。
- 若い世代に届く情報発信が必要です。
- 若い世代が関心のあるテーマの活動について、協力を依頼してみましょう。

●担い手の確保

こんな町内会になっていませんか？

- 役員同士の絆が強すぎる・仲が良すぎる
- 役員の男女比率の偏りが大きい
- 役員の任期が長い
- 役員会は平日の昼間が多い
- 新しいことはあまりやらない
- 役員は高齢者だけである
- 活動・行事は主に高齢者を対象のことが多い
- 自治会の情報を積極的には発信していない



残念ながら新しい人材が参加しにくい組織です

オープンな町内会運営へ

①誰もが参加できる

- 総会や役員会などには誰もが自由に参加できるようにします。
- 総会や役員会などは多くの方が参加できる時間帯に開催します。
- これからは総会や役員会などはオンラインで開催することも必要です。

②役員任期のルール化

- 役員の任期を明確にして交代します。
- 役員の任期を決め、「輪番制」など入れ替わる環境をつくります。

③役員定年制

- 役員の定年制を導入します。
- 役員の高齢化を防ぐと同時に、引き継ぎがスムーズに行えます。

④役員複数制

- 役員の負担を軽減するために、役員を複数制として代替わりがしやすいようにします。
- 前任者と新任者が重複する期間を設けることで、円滑に引継ぎができるようになり、新任者の精神的負担が軽くなり、継続性も確保できます。



役員は複数制にして重複期間を設けることで継続性を確保できます

⑤各世代から役員を選出

- 世代ごとに役員を選出することで、各世代のニーズに対応した活動や運営を行うことができます。

⑥町内会役員の輪番制

- 役員の輪番制を検討する町内会も増えています。
- 輪番制の導入にあたっては、以下のことを検討した上で実施することが望ましいと考えられます。

- ① 活動の棚卸しを行い、役員の仕事を簡素化します。
- ② 簡素化した仕事のマニュアルを作成します。
- ③ 様々な理由から役員ができない世帯をどうするか検討し、ルール化することが必要です。

例えば役員をやらない世帯は、会費を高くしている自治会もあります。
また、輪番制の役員に適度な報酬を支払っている自治会もあります。

⑦役員マニュアルの作成



- 役員の交代を容易にするために「役員マニュアル」を作成しておきます。
- マニュアルを作成することで、役員の仕事内容の見直し(棚卸し)も行うことができます。



役員の負担が大きい

- 地域住民の意思で運営される任意団体です。
- その運営は、ボランティア（有償ボランティアも含む）が基本です。
- ボランティア組織なのに、役員は「忙しい」などの課題があり、敬遠されがちです。
- 若い世代は、比較的ボランティア意識がありますが、現状のままだと町内会組織は若い世代を取り込むことが難しいことも考えられます。



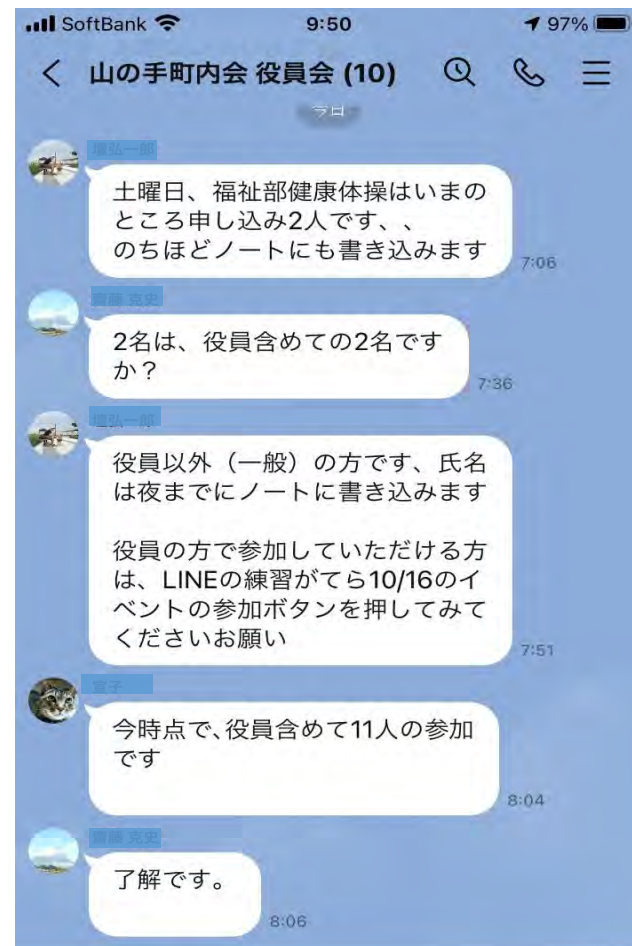
OSNSで役員の負担軽減

- LINEグループの活用などで役員の負担を軽減させることが必要です。

電話やFAXではなく、LINEグループで情報を共有することで役員の負担が軽減されます

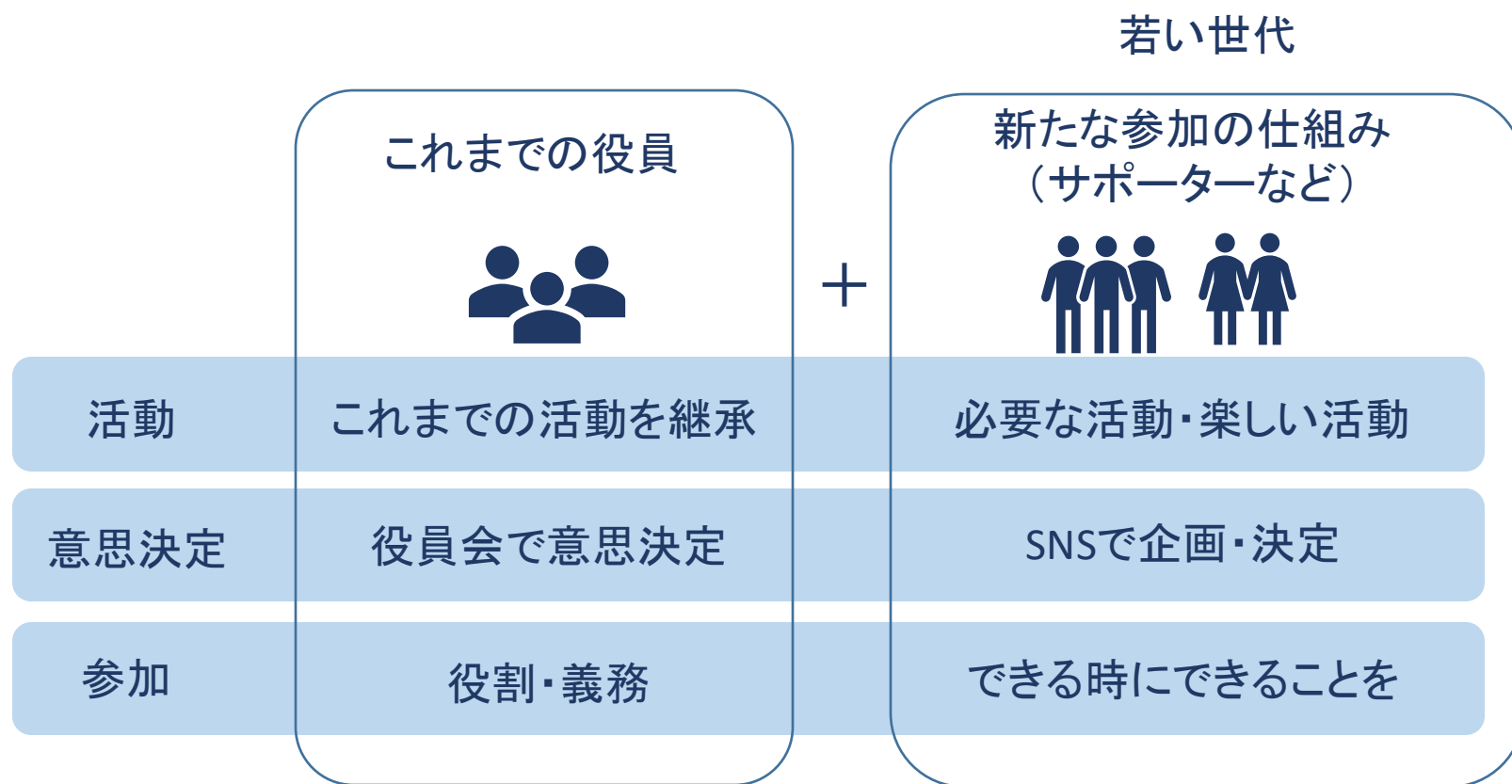


参画しやすい組織への一歩



○多様な参加の仕組みをつくりましょう

- 若い世代が参加しやすい仕組みをつくる必要があります。
- 曜日時間帯関係なく、都合の良い時に参加できる仕組みも大切です。



○新しい行事・活動をつくる実行委員会制度を設けましょう

- 若い世代がやりたいことを行事かできるように、「実行委員会」を位置付けましょう。
- 新しい行事や活動は、最初は実行委員会でお試しでスタートして、行事化します。
- 輪番制の町内会・自治会は新たな行事や活動ができないといった課題もあります。ぜひ実行委員会制度を設けましょう。



情報発信と広報の不足

情報発信・情報共有（デジタルでつながる町内会）

- みんなが町内会を知っているとは限りません。
- 回覧板では情報は届いていないと考えましょう。
- 情報が届いていないため、「町内会を知らない」「参加するきっかけがない」といった声につながります。
- 若い世代向けにSNSで情報発信を行いましょう。

若い世代



- 子どもの頃、お祭りに参加した
- 今は町会は知らない
- 回覧板はみたことがない
- 新聞は取っていないしテレビも見ない
- 情報はSNSから
- SNSでつながりコミュニティをつくることもある

●世代によって異なる利用するSNS

10代・20代前半



新聞・テレビは見ない
ネットで情報収集

20代・30代・40代



Instagramで情報収集

50代・60代・70代



Facebookが多い
コミュニケーションはLINE

●町内会のデジタル化とツール

- 町内会加入世帯向けのツールと未加入世帯も含めたツールを使い分けることが大切です。

町内会未加入世帯も含む

町内会加入世帯 ルールが必要



役員会

LINEグループ

- ・町内会専用アプリ
- ・LINE公式アカウント
- ・LINEオープンチャット
- ・LINE WORKS など

チャット機能
電子回覧板
書類・データの管理
カレンダー機能



活動の見える化
情報共有
イベント参加の告知
(参加のきっかけ)
加入促進



Instagram
Facebookページ
ホームページ



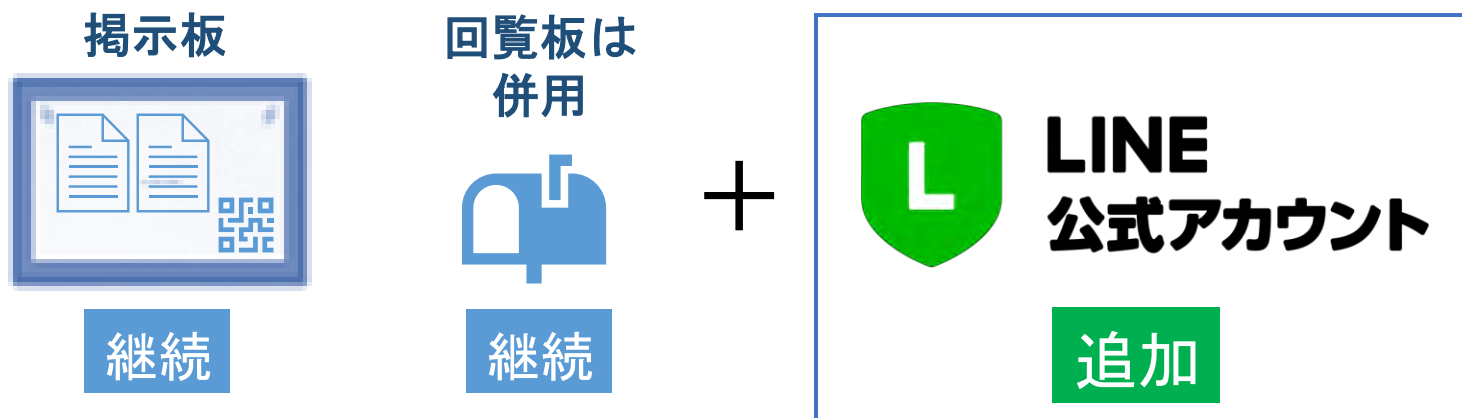
● LINEグループを活用した役員内のコミュニケーション

- 役員間では、LINEグループで情報共有や合意形成を行います。
- 役員間の連絡の手間や役員会の回数を減らすことができます。
- LINEグループで役員の負担が軽減することで、現役世代が参加しやすい町会運営につなげることが大切です。



● LINE公式アカウントを活用した電子回覧板

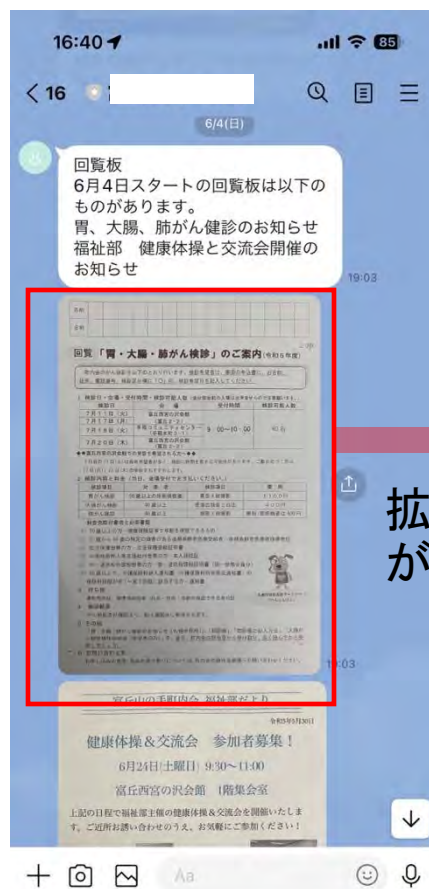
- 複数の媒体で町内会の情報を発信する
 - 会員の皆さんのライフスタイルに合わせた情報発信を多様化させること



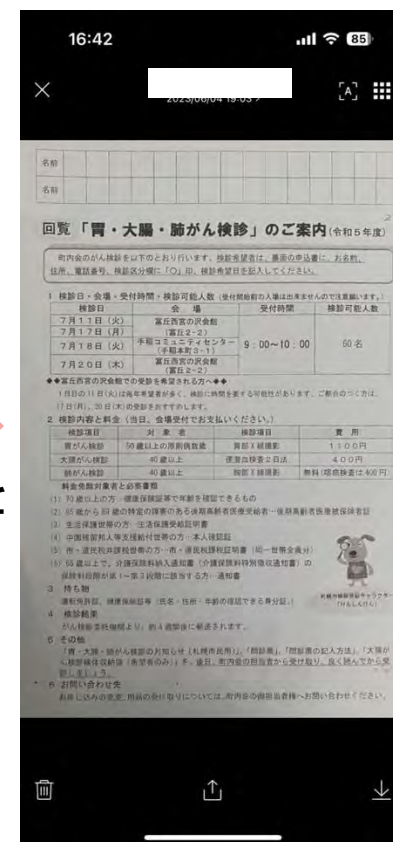
- リアルタイム(即時性)の情報発信ができる
 - 災害時など緊急時の対応やお知らせの発信に効果的
 - 会員に知らせたい情報、協力してもらいたい情報がある際、すぐにお知らせできる

●LINE公式アカウントを活用した電子回覧板

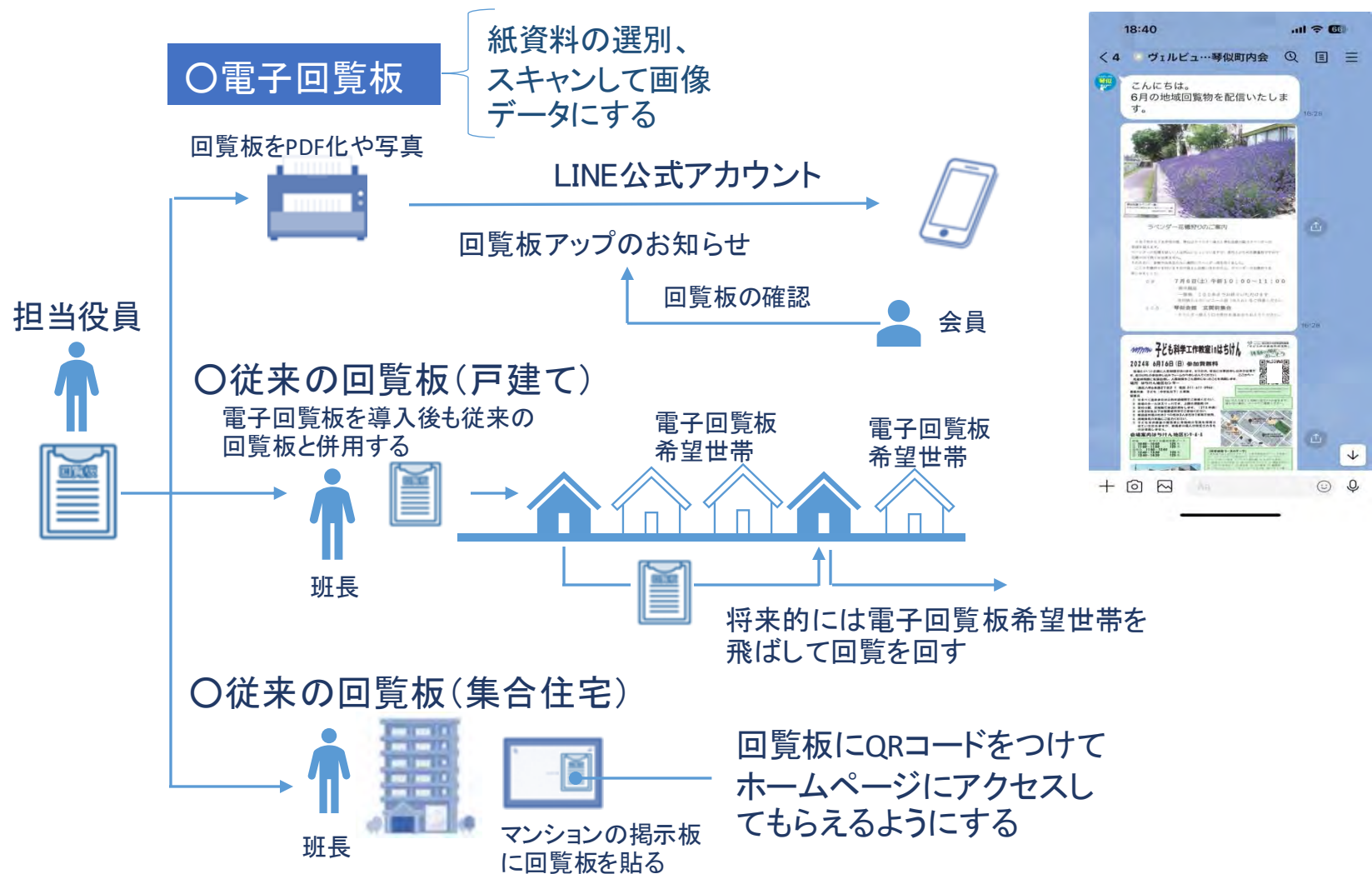
- 回覧板の概要を伝える文章と回覧板を画像にしたものをアップします。



拡大して見ることが
できます



●LINE公式アカウントで回覧板（イメージ）



●Facebookページで情報発信

- 町内会の情報をFacebookページでもアップして広く周知しています。



●Instagramによる町会の情報発信

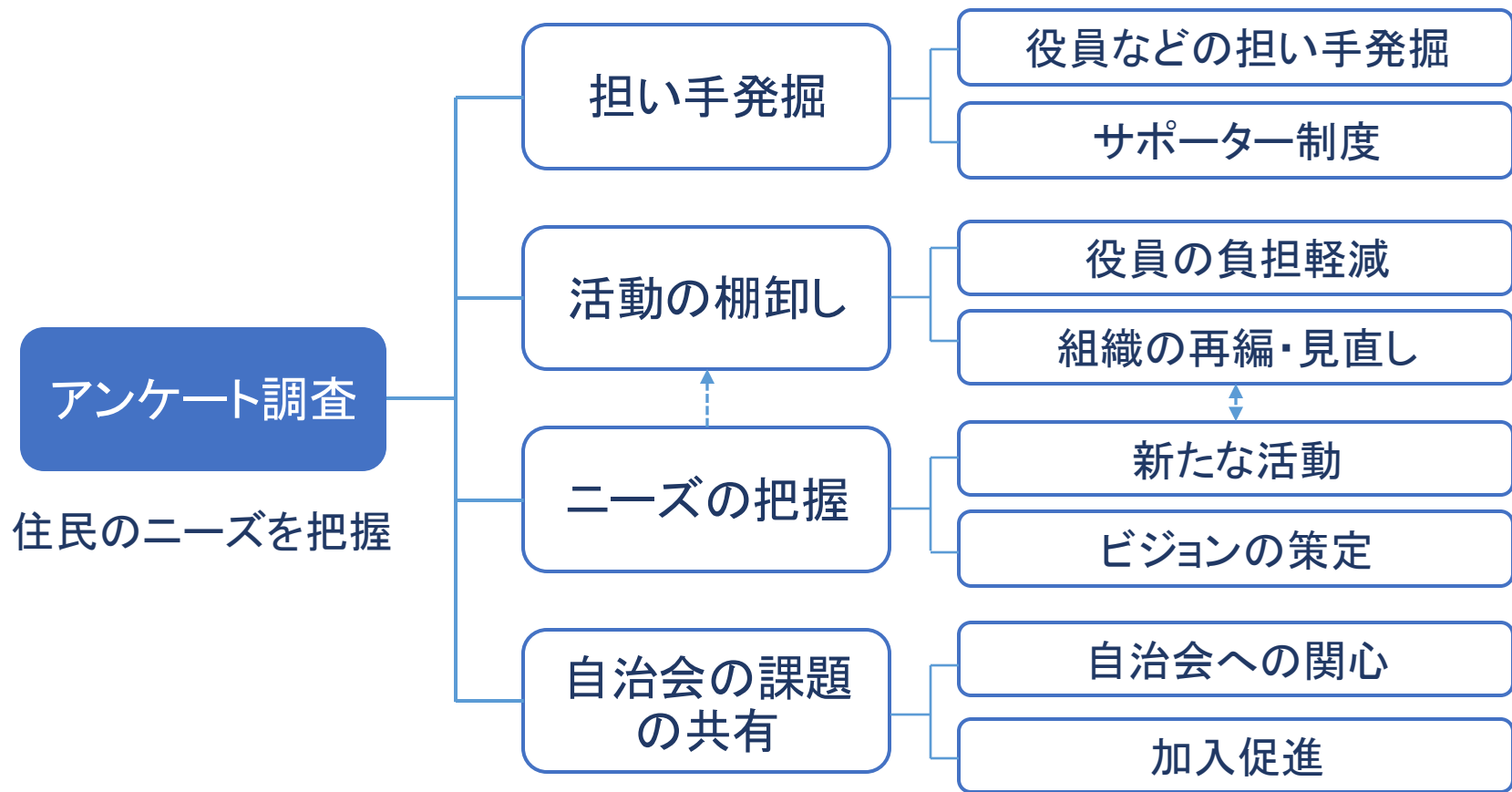
- 町内会の活動を写真や動画で発信します。



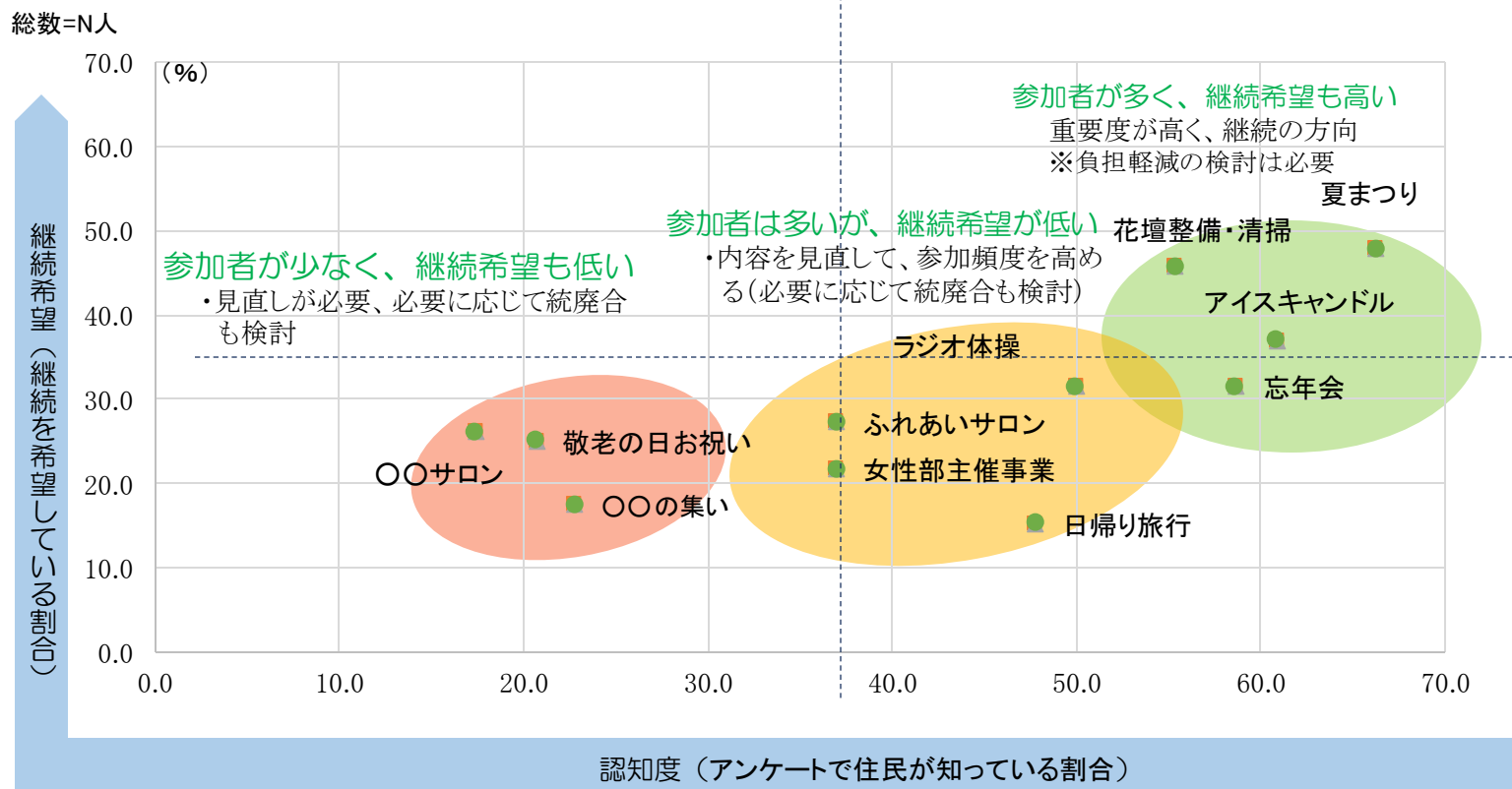
町内会も変わらないと

4. これからの町内会運営のヒント

(1) アンケートはこれからの町内会運営の一步



アンケートの分析～活動の棚卸しと新たな活動を考える



アンケートで人材発掘

事例 旭山町内会（札幌市中央区）

- 加入世帯 約200
- 地域特性と課題
- 役員の担い手が不足している
- 住民のニーズがわからない
- 賃貸住宅があり、住民の顔が見えない など



アンケート調査実施

- 町内会行事について
- 町内会の情報発信について
- 町内会の運営や活動について
- 役員の担い手について
- その他
- 回答者自身（性別、年代など）

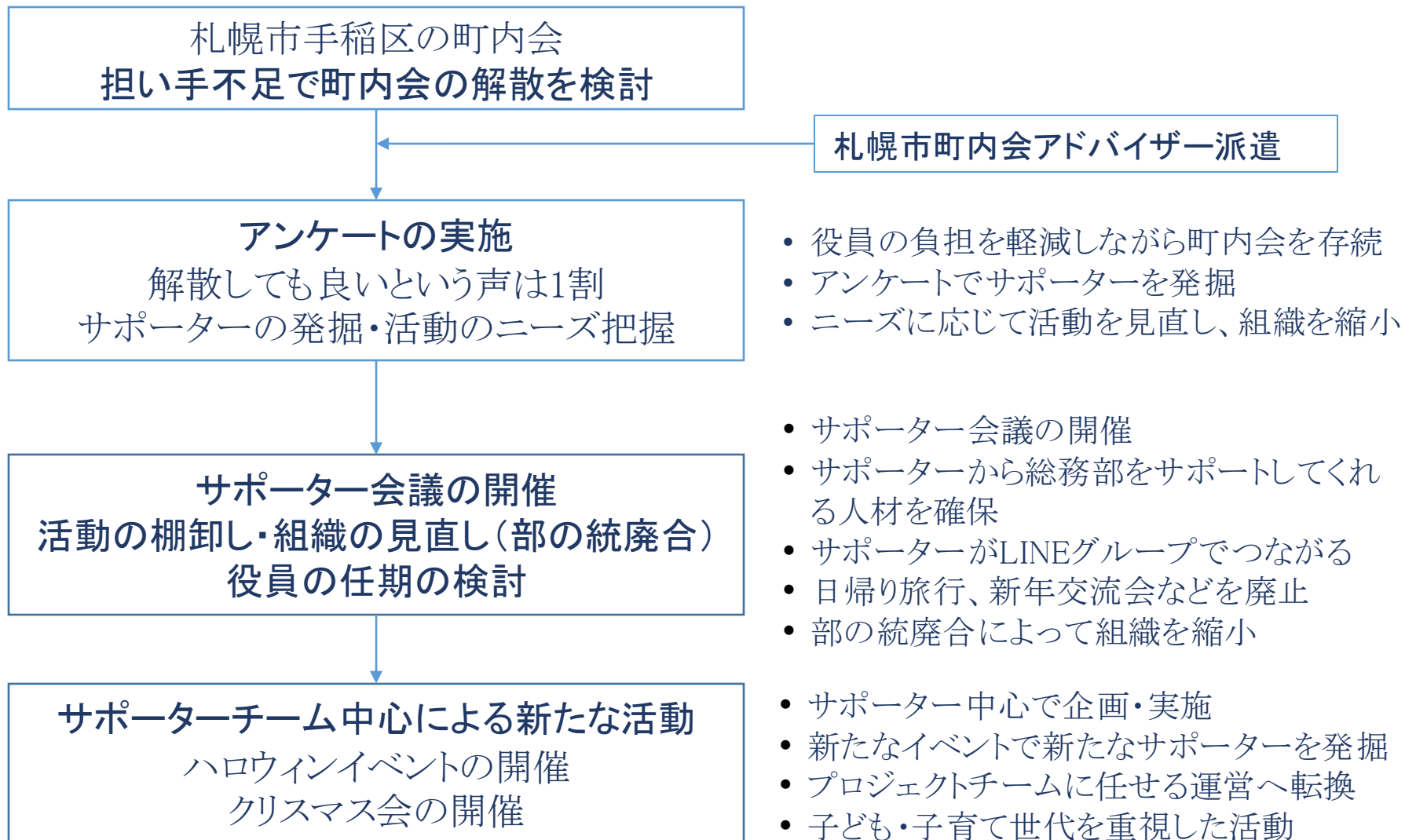
担い手

- 役員の担い手候補:14名
- 活動サポーター:29名

事業の見直し

- 参加者は少ないがニーズの高い事業は、内容の見直し
- 参加者もニーズも低い事業は廃止

(2) 担い手不足から解散を検討した町内会の復活



サポーターが企画・開催したクリスマス会

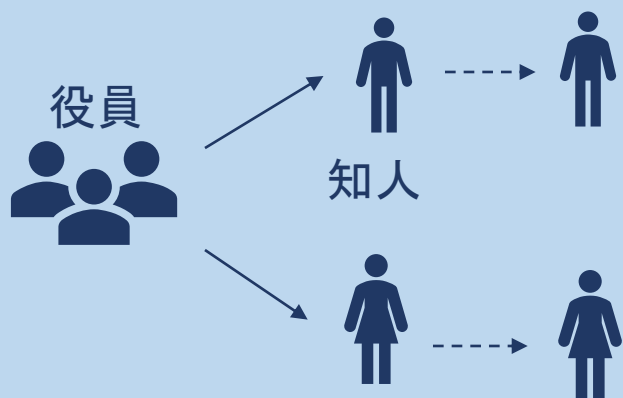


ポイント1: アンケートで広く人材の発掘

- ・ 町内会の役員は、顔見知りからが多く、その範囲や世代は限られている。
- ・ アンケートで広く人材を発掘する大切である。

アンケートでの人材発掘範囲

役員による直接的な人材発掘範囲



顔見知りの範囲・世代が近い



地域コミュニティの力
が必要

子育て世代など
多世代



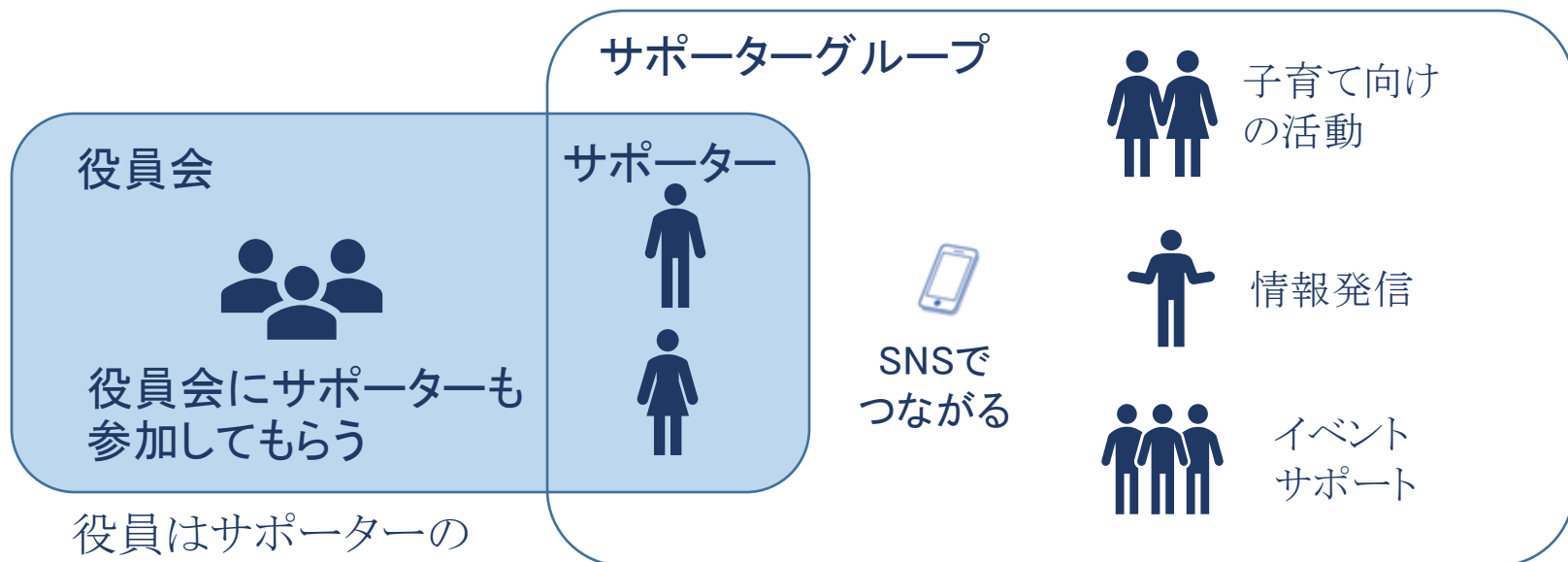
やれる時に
やれる範囲内で



地域に貢献したい

ポイント2: サポーターとつながりをつくり、企画から任せる

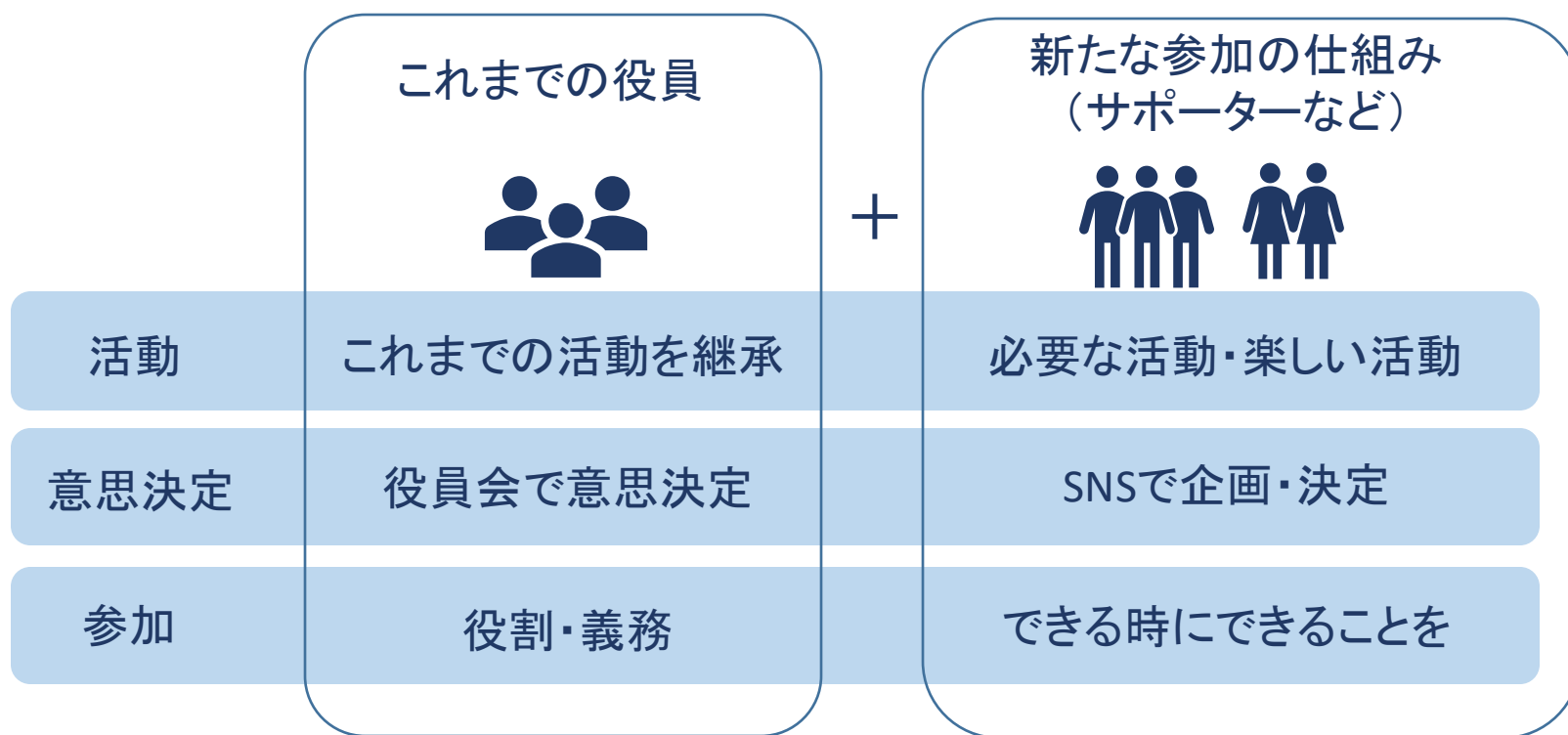
- ・ サポーター会議などを開催し、役員とサポーターのつながりをつくる。
- ・ サポーターに新たなイベント・活動を企画から任せる。
- ・ 役員は支援者に徹する。



- ・ サポーター会議でサポーター同士のつながりをつくる
- ・ LINEグループなどで緩やかにつながる
- ・ サポーターの負担にならない活動
- ・ 子育て世代向けの活動などを企画から行う
- ・ 新たなイベントや活動を通じてメンバーを増やす

ポイント3:新たな参加の仕組み(できる時にできることを)

- 新たな参加の仕組みをつくり、町内会に関わるメンバーを増やすことが必要である。
- 役員とは異なる世代を新たな仕組みで参加できるようにすることが大切である。

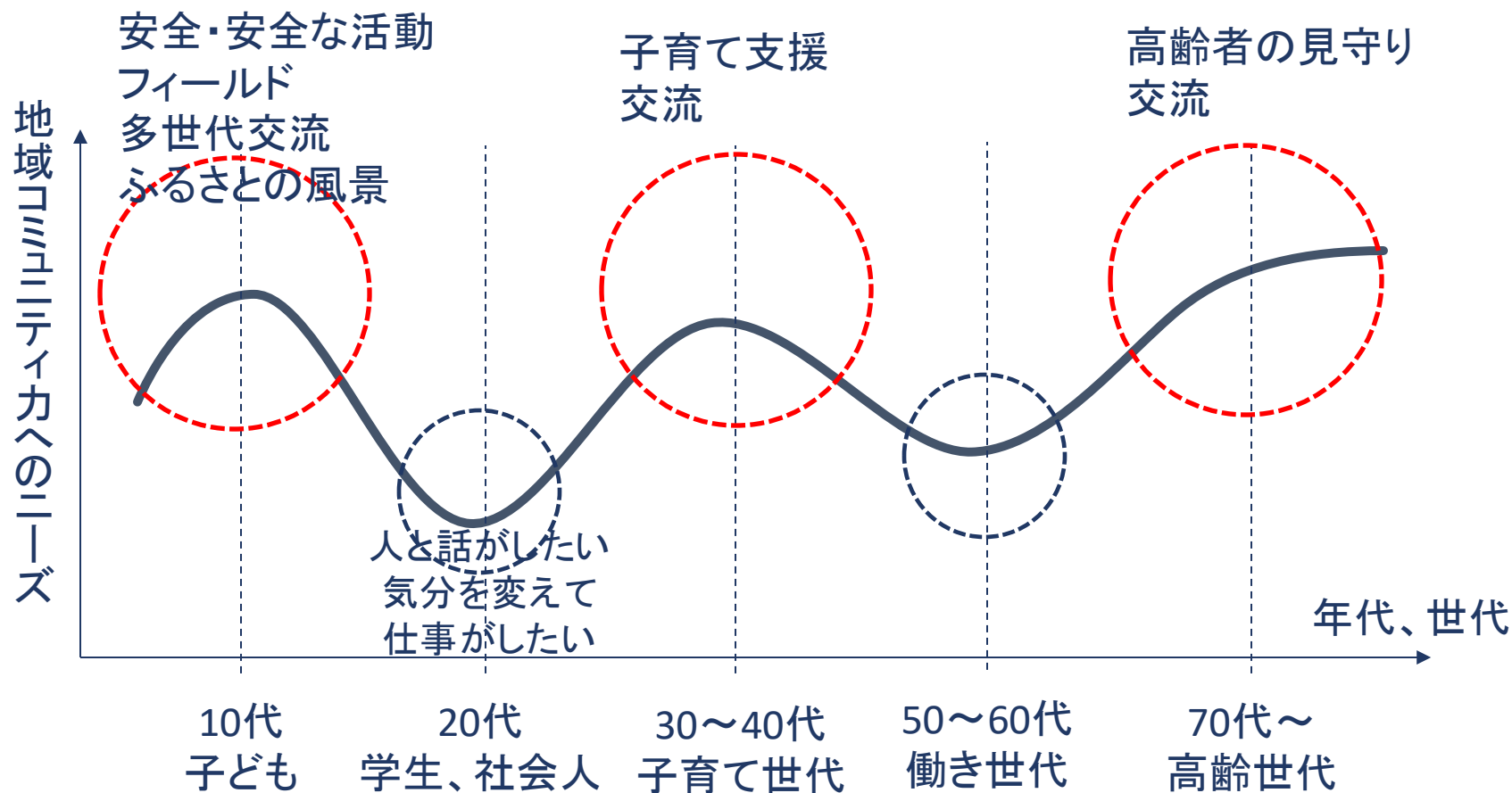


(3) 若い世代・子育て世代向けの活動を意識的に

- 子育て世代など地域コミュニティの必要性が高い方々に向けた活動を意識的に行うことで町内会の必要性を感じてもらうことが必要です。
- 子ども向けの小さなイベントでも良いのですスタートを切ることが大切です。



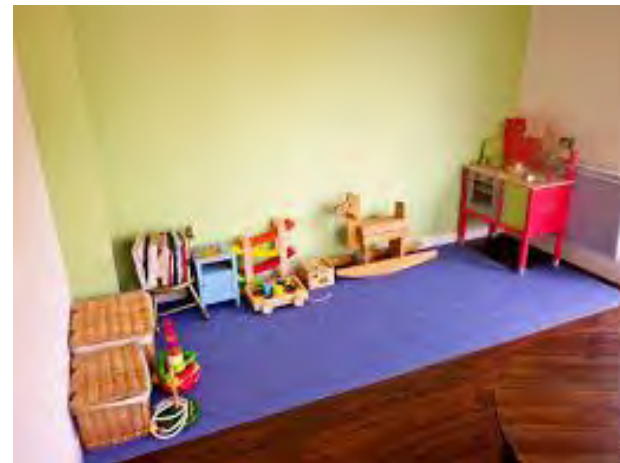
地域コミュニティの支援が必要なのは、 高齢者だけではありません



●子育て支援



西区西町 hug*cafe BASE(子育て世代の女性によるコミュニティ)



南区藻岩 子連れカフェ SUVACO 孤独になりがちな子育てのママを応援

●子ども食堂



社会福祉法人による子ども食堂・子リス食堂MogMog(清田区北野)



ラーメン店が子ども食堂を開設(中央区)

<https://mainichi.jp/articles/20221005/ddl/k01/040/036000c>



クラウドファンディングで子ども食堂開設
あかはな子ども食堂(西区)

(4) 町内会のデジタル化は避けられない

① SNSの導入

- SNSで町内会の情報発信
(Facebookページ、LINE公式アカウント・Instagram)
- SNSを活用して役員の負担軽減(LINEグループ)
- SNSで参加しやすい組織



- 自治会のFacebookページをつくり、会員や外部に情報発信を行います。



- LINEグループ
 - 役員間でLINEグループをつくり、現役世代も役員会に参加しやすくし、時間の負担を軽減します。
- LINE公式アカウント
 - 自治会会員向けのLINE公式アカウントをつくることで、会員向けに情報発信ができます。
 - 回覧板のように利用することができます。

●世代によって利用するSNSも異なります

10代・20代前半



新聞・テレビはみない
ネットで情報収集

20代・30代・40代



Instagramで情報収集

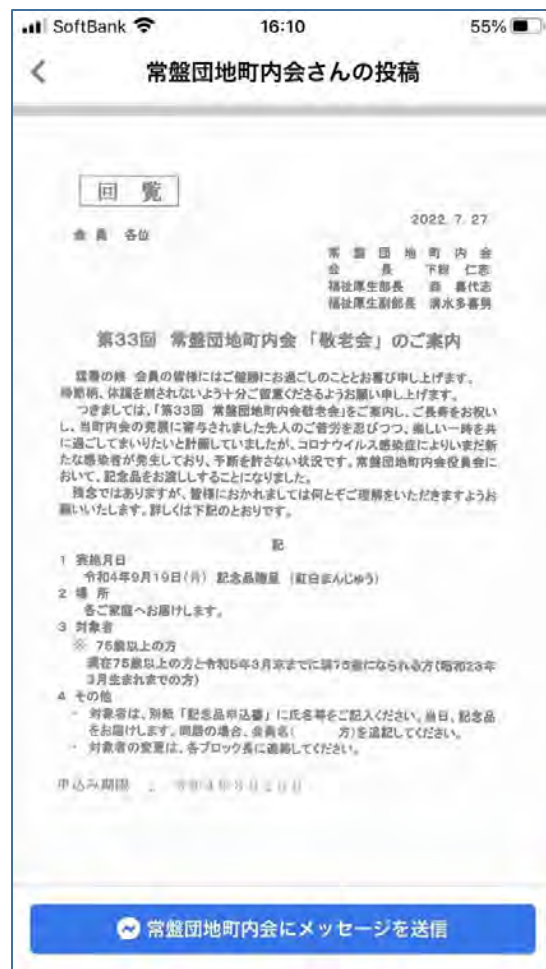
50代・60代・70代



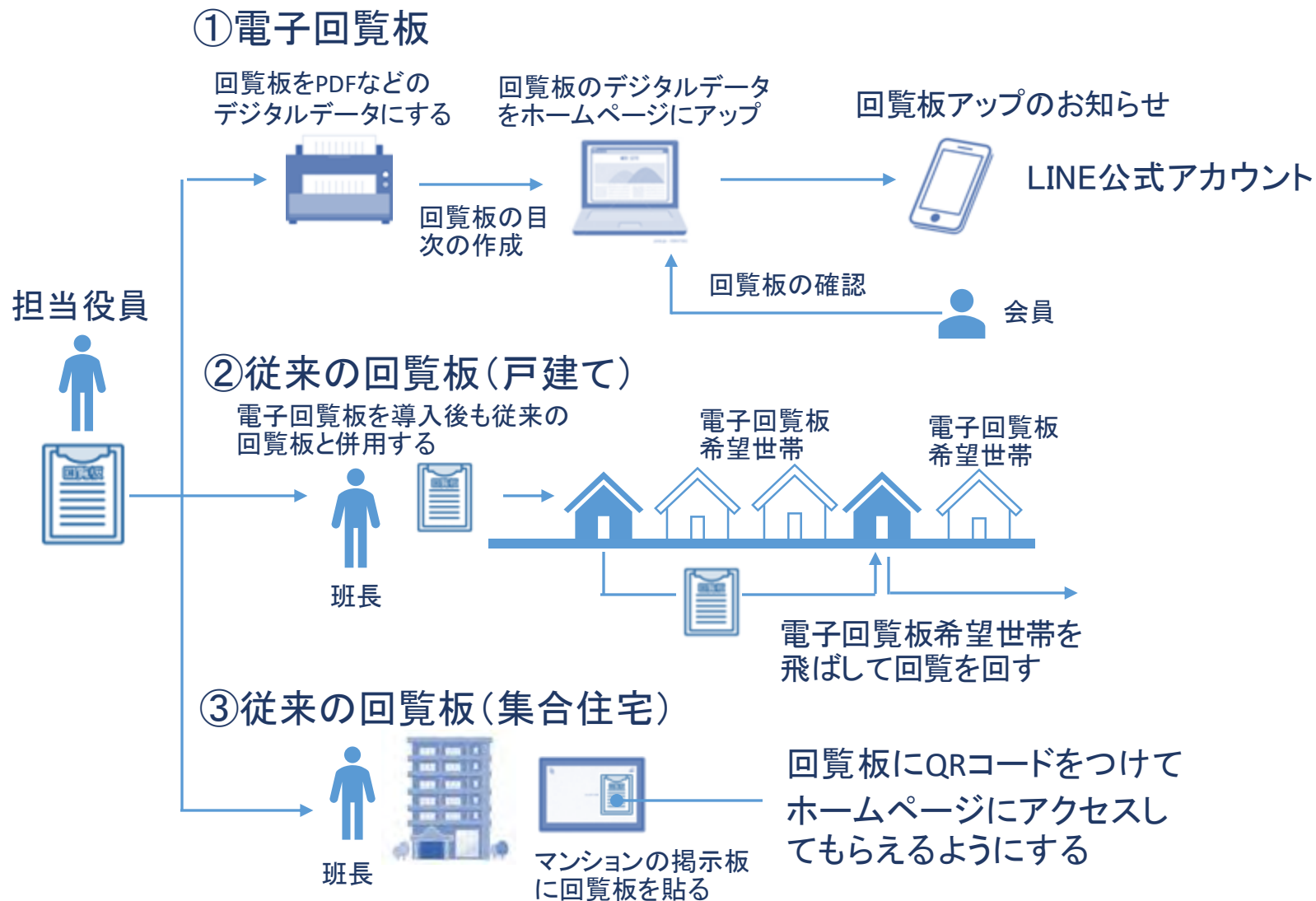
Facebookが多い
コミュニケーションはLINE

Facebookページで情報発信

- 回覧をFacebookページでもアップして、広く周知している町内会・自治会もあります。

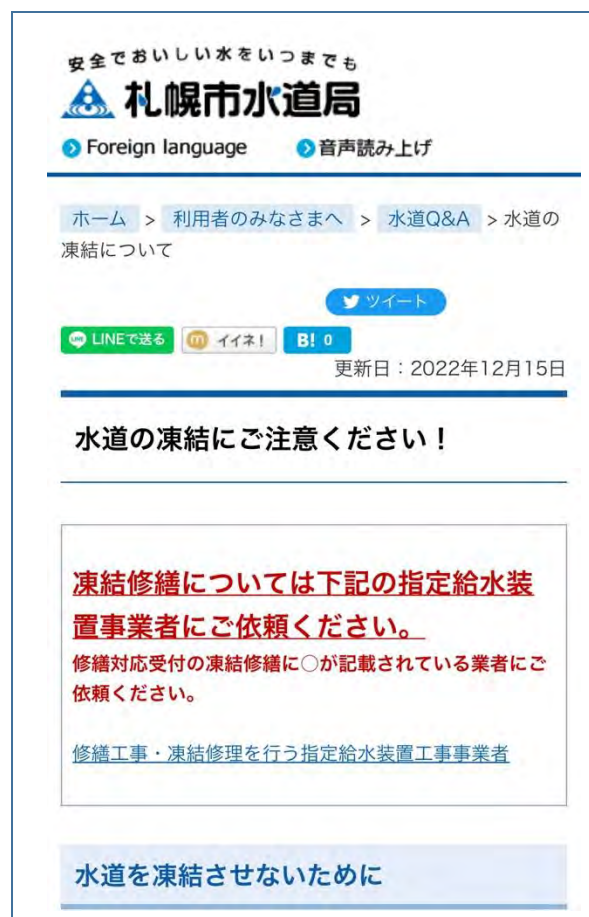


②電子回覧板の導入イメージ



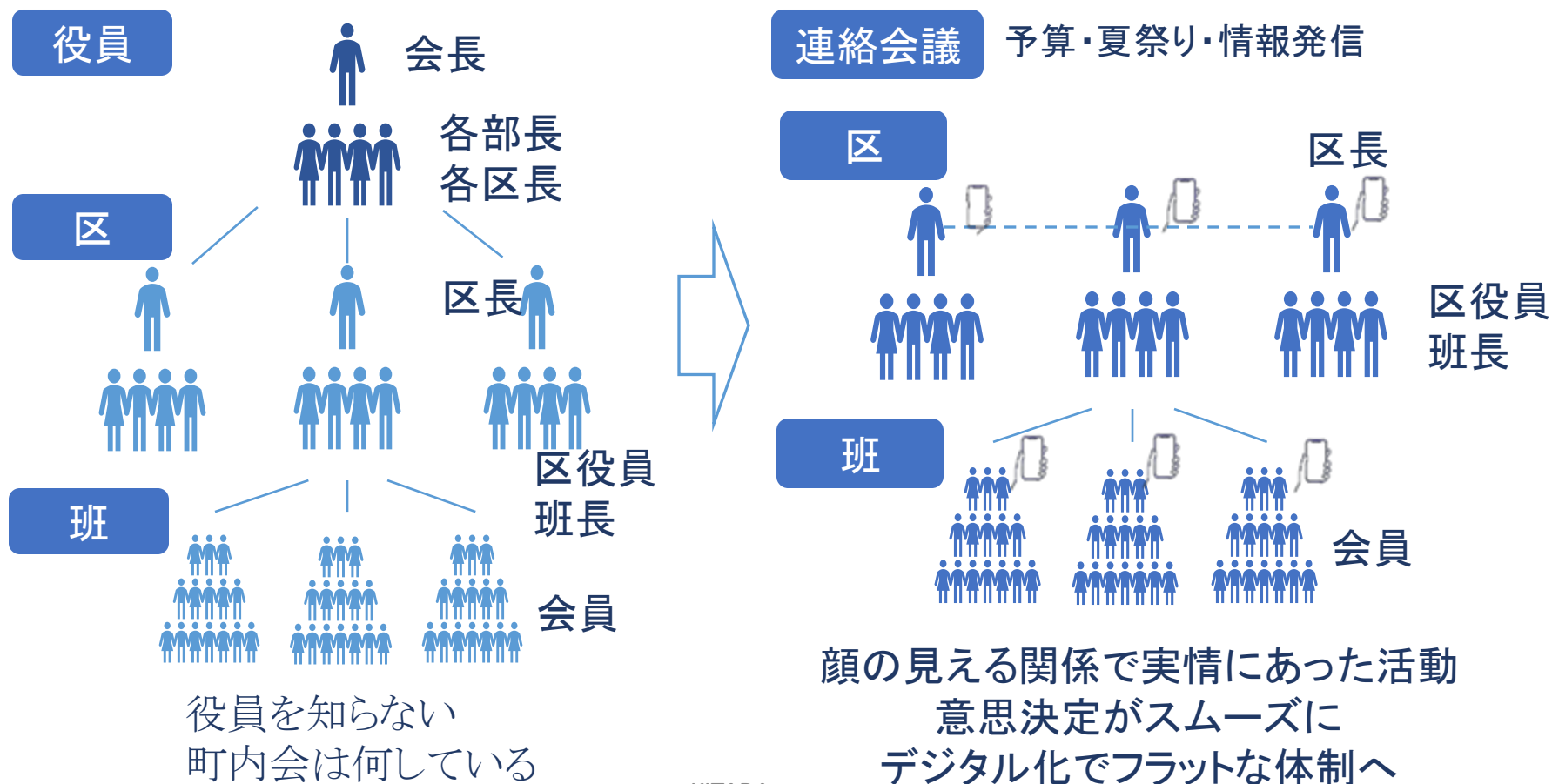
●紙の回覧板と併用したLINE公式アカウントの運用

- 紙の回覧板と併用して、LINE公式アカウントによる回覧内容の概要を配信しています。
- LINE公式アカウントの配信から簡単にホームページに掲載している回覧書類のデータを見ることができ、町内会の情報共有の効率化につながっています。



(5) 顔の見える組織・素早く動く組織

- 世帯数が多くなると誰が役員をいつているのか、何をしているのか解らない状況となり、町内会が縁遠い組織になりがちです。
- 顔の見える運営体制づくりを進めることが大切です。
- 小さく分割することでそれぞれの区に応じた素早い運営が可能になり、会員の関心を高めることができます。



デジタル化でフラットな体制

- デジタル化で従来の何層もあるピラミッド型の体制を取らなくても情報共有や意思決定ができるようになってきています。
- デジタルで顔の見える関係づくりを進めましょう。

デジタル化の特徴

- 情報がすばやく一斉に届く(手渡しによる受取の時差がない)
- 緊急時の情報発信にも役立つ
- どこにいても情報が受け取れる
- 過去の内容が見返せる
- 若い世代も情報を受け取りやすい など



(5) 西野連合町内会のこれからのイメージ

1) 西野地区の大規模模町内会



各地区によって状況が異なる

現状

- 子育て世代がいる
- 高齢者も多い
- 役員の顔が見えない
- それぞれの地区で状況が異なり、ニーズに応じた活動が難しい
- 町内会は縁遠い組織

町内会が全体企画・活動区に分けてニーズ応じた活用



各活動区役員

見守り・子育て支援・電子回覧板

若い世代



SNSで
つながる



お祭り・イベント



子育てサロン
子ども食堂



他の活動区



他の活動区

お祭り・子育てサロン・情報発信を実施

2) 西野地区の中規模町内会



戸建て住宅が中心
若い世代は居る

現状

- 子育て世代がいる
- 今後人口減少とともに世帯数が減少
- 空き家も増えてくる
- 町内会の担い手不足
- 単独でお祭りやイベントの開催は難しい

連合町内会がコーディネート(橋渡し)



町内会役員

子育て支援・子どもイベントで参画

若い世代



SNSで
つながる



お祭り・イベント



子育てサロン
子ども食堂

近隣町内会



お祭り・子どもイベント・情報発信を連携

3) 西野地区の小規模町内会



世帯数が少ない

- ・ 町内会の世帯数が少ない(数十軒)
- ・ 常に担い手不足
- ・ 清掃活動ぐらいしかできていない
- ・ 自然豊か
- ・ 空き家などがある

連合町内会がコーディネート(橋渡し・支援)

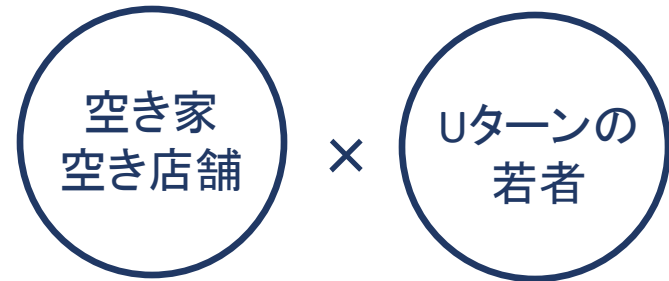


関係人口
(バーチャル会員)



交流の場・滞在の場・情報発信

● 滝上町:「曜日限定」でオープンしているカフェKARSU



- 滝上(たきのうえ)町出身の姉妹、扇みなみ氏と井上愛美氏がUターンして起業したCasochi(カソチ)合同会社。
- Casochi(カソチ)合同会社が2019年4月に開業したカフェ「KARSUI」をオープン。
- KARSUI(カースイ)の名前の通り、火・水曜のみ営業。ごはん・スイーツは週替わり。



https://www.instagram.com/_karsui/?hl=ja

●函館市 陣川あさひ町会のJバス(函館市陣川あさひ町会)

- 函館市陣川あさひ町会では、平成24年4月から町会が運営主体となって、行政からの補助を受けずにバス運行の実証実験を行った。
- バスは地域住民の買い物や通院などの貴重な足として、ニーズに合わせたルート変更なども行った。
- 町会の努力のより、採算ラインを維持してきたことから、バス事業者や函館市と協議し、平成27年4月1日から路線バスとして本格運行することになった。



出典: www.yourun.net



出典: www.mlit.go.jp

最後に

ウィズコロナの町内会運営で大切なことは 子ども・子育て世代向けの活動を意識的に行うことです

